



保坂 悟
議員

質問 一般廃棄物最終処分場問題の今後について

昨年末、一般廃棄物最終処分場適正化工事が完了した。以下の項目について伺う。

- (1)水銀を含むばいじんを埋めた公害防止協定違反について
- (2)クローズド型（屋根付き）新最終処分場の地元補償について
- (3)大野区民の善意を踏みにじた道義的責任について
- (4)大野地区に対する補償内容一覧表の作成について

▼市長答弁

- (1)公害防止協定違反を重く受け止め、今後は、昨年12月18日に締結した協定書を遵守し、適正な管理を徹底していく。
- (2)大野区から平成23年10月に頂いた6項目の要望について、地域振興策として計画的に実施している。
- (3)大野区の皆様には、不安とご心配をおかけし、お詫びをさせていただいてきている。
- (4)補償としてではなく、地域振興策として、近々、新年度の事業を大野区に説明していく。

質問 日本一の子どもづくりについて

子育て支援について、ブックスタート事業の目的と意義、今季の子どもインフルエンザ助成の効果、学童保育の延長時間の検討結果はどうか。

子どもの基礎学力向上支援について、保護者向けに勉強癖がつくアドバイス集の提供、教職員のOB・OGによる放課後先生制度の導入はどうか。

▼教育長答弁

ブックスタート事業は、絵本を介して親子が心触れ合う時間を持つきっかけづくりの1つであり、読書ボランティア等と協力して、絵本に関心が薄かった保護者も親子で絵本に親しむことを習慣化していくよう取り組むものである。インフルエンザ助成については、1月末現在、小学生の63.5%が接種済みであり、重症化の予防に寄与していると考えている。また、放課後児童クラブについては、4月から一部で時間延長を予定している。

基礎学力向上支援について、保護者会で話題とするほか、「学習の手引」を作成するなど、家庭学習の定着に向け、家庭との連携を図っているところである。提案を受けた方法も含め、家庭学習を定着させる方法について、調査、検討していきたいと考えている。また、中学生の学力向上のため、退職した教職員による補習授業を今年度から行っている。

その他質問項目

- 糸魚川市の魅力づくりについて
- 移住定住の促進策について



伊藤 文博
議員

質問 内部監査体制と戦略的企画部門の強化による機能の高い組織の構築と、より高度な行政経営の実現について

内部監査は、組織機構とその運用、施策の無駄や不足をチェックし、より効率的で機能的な組織運営を継続的改善により導き出していくべきものであり、一方、企画部門は、市の政策全般に精通する中で、戦略的に持続可能なまちづくりを目指して企画立案していかなければならないし、戦略的思想があってこそ、継続的改善の必要性が生じ徹底されることになる。

この両輪が機能してこそ、PDCAサイクル※が高いレベルで廻ることになり、常により良い糸魚川市を追い求める行政経営が可能になると考える。庁内全体が同じ方向を向いてお互いに高め合っていく気運をつくり、また、庁内全体をそうしなければならぬ状況下に置くためには、機能の高い組織づくりが必要であり、それ以前に職員の意識改革を図っていく必要がある。

「意識改革は熱伝導であり、熱源は市長である」と再三言っているが、気運が高まってきている様子が一向に感じられない。

次の項目について、どのように考え、具体的な方策を講じていくのか伺う。

- (1)内部監査（業務監査）体制の強化について
- (2)戦略的企画部門の強化について
- (3)職員の意識改革による継続的改善の徹底について

▼市長答弁

- (1)内部監査はミスの防止を主眼として実施している。業務監査ということでは、事務事業評価を実施しているが、すべての事務や業務には対応していない現状である。提言のあった体制の強化については、組織改革も含めて、今後検討していく。
- (2)現状は、企画財政課がその役割を担っており、企画部門のみを担当する課の設置は予定していないが、各部、各課の企画力の強化を進めている。
- (3)組織目標などについて、職員一人一人の意識を共有することはもとより、職員が、改善意見などを出しやすい組織環境などが大切であり、目標管理面談を実施する中で、意識共有、意識改革の取組を進めている。

※PDCAサイクル…マネジメントサイクルの1つで、計画（plan）、実行（do）、評価（check）、改善（act）のプロセスを順に実施し、改善を次の計画に結び付けるもの。このプロセスを繰り返すことによって、品質・サービスの維持・向上および継続的な業務改善活動を推進するマネジメント手法。